

## ヒポクラテスの木の植物学

「ヒポクラテスの木」は、中近東原産で、ギリシャやトルコにふつうに生えているプラタナス (*Platanus*) の木であり、語源は大きな葉: ギリシャ語の *platys* (広い) に由来する。ソクラテスもプラトンもその木陰で講義したといい、ヒポクラテスだけではないようだ。花言葉は「天才」であるのはこのためだろう。日本名はスズカケノキである。スズカケの語源は鈴をぶら下げたような実がなるからと言う俗説があるが、誤りである。スズカケを漢字で書くと「篠懸」で、山伏などの旅装束の、上に羽織る衣装の胸元のぼんぼんのような糸玉のことである。能や歌舞伎の「安宅」などで、義経や弁慶の装束のあの玉である。近縁種のアメリカスズカケノキは、英語で *button tree* とよばれ、よく似た語源である。

白亜紀のヨーロッパの植物化石にプラタナス属と思われるものがあるらしい。大陸移動で、ユーラシア大陸とアメリカ大陸が分かれる過程で一族は双方に引き裂かれたらしい。それぞれの土地で独自に隔離進化したものが、中近東原産のスズカケノキ (*Platanus orientalis* Linn.) と、北米原産のアメリカスズカケノキ (*Platanus occidentalis* Linn.) であるようだ。前者は葉の切れ込みが深く、多数の実が房状に付き、樹皮は大きく剥がれ白い幹が裸出するが、後者はその逆である。

17世紀のプラントハンターの時代に、英国の植物収集家の庭で両方を並べて植えておいたら、その合の子のモミジバ スズカケノキ (*Platanus acerifolia* Wild.) ができたという話が本に書いてある。モミジバ スズカケノキは幹の肌が美しく、公害によく耐え、剪定にも強いいため、品種改良が加えられ、英国で庭園樹、街路樹として広く用いられ、その後世界中に広がり、いまや、世界4大街路樹の一つと言われている。

日本にスズカケノキが導入されたのは、明治9年の小石川植物園がはじめてで、高さ30mを越える3種の巨樹が一望できる。明治30年代には、西洋式庭園に欠かせない樹種として、目黒の林業試験場、新宿御苑、日比谷公園に導入され、モミジバ スズカケノキの子孫が品種改良されあちこちの街路樹に多用されている。

都内の街路樹の多くは、このモミジバ スズカケノキである。同じモミジバ スズカケノキであっても、地方により利用される品種は異なり、葉の形や樹皮の様子はさまざまである。

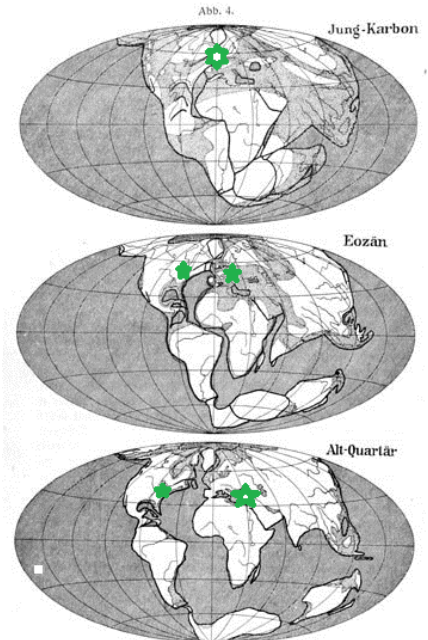


小石川植物園の3種のプラタナス。

剪定に強いいため、秋には極端な剪定を受け、断端がコブの様になり、冬場には骸骨のような樹形で、街路に林立することになる。

剪定しなければ、のびやかに枝を伸ばして、高さ30mを超える巨樹となる。街路樹とは全く異なる樹形である。

なおロンドンの大時計台 (ビッグベン) の周りの緑はほとんどこの樹木である。



ウェーゲナー『大陸と海洋の起源』第4版(1929年)より、著者改変

上段: 白亜紀: 原始プラタナス  
中下段: 大陸移動。隔離進化  
18世紀イギリスで交雑種: モミジバプラタナスができる。世界で品種改良公園樹、街路樹に



この3種の葉の形を写真に示した。葉の切れ込みが深く形の整っている左上2枚がプラタナス、切れ込みが浅く形の不正な右上がアメリカ プラタナスの葉である。モミジバ プラタナスは下段のものであるが、個体ごとの多様性が大きく、前2者の中間のいろいろな形のものがある。葉の大きさや厚さと固さ、黄葉時の葉の色つやにもバリエーションが大きい。

プラタナスは雌雄同株異花である。6月頃に地味な花をつけ、秋には堅い集合果となる。冬中ぶらぶら枝に下がっているが、次第に落果して、踏まれて粉々になるか、風に飛び散って、タンポポのような小さい種が風に散る。

写真の①は雌花、②は雄花、③は一冬越した集合果、④は種が飛び散った後の柄である。

一つの柄に、花・



実が4-6個つのが写真に示すプラタナスで、1個がブーランとぶら下がるのがアメリカ プラタナス、2個ついてサクランボのような形になるのがモミジバ プラタナスである。集合果は、崩れるとタンポポのような種となり、風に乗って飛び散る。

樹皮ははがれ、白く裸出するのがプラタナス、樹皮の剥がれにくいのがアメリカ プラタナス、幹の中間から上のほうで剥がれてくるのがモミジバ プラタナスであるが、個体差はかなり大きい。

左の写真は、東大のヒポクラテスの木の姿、集合果のなり方は、植物学的には、ギリシャのコス島の「ヒポクラテスの木」と同じ、中近東原産のプラタナスである。



### スズカケノキ

アジア西部、ヨーロッパ南東部、ヒマラヤ原産。  
葉の切れ込みが深い。  
樹皮は大きく剥げ落ちる。  
実は串団子のように2~6個つく。



### アメリカスズカケノキ

北アメリカ原産。  
葉の切れ込みは浅い。  
樹皮はあまり剥げない。  
実は1個ずつ。



### モミジバズカケノキ

スズカケノキとアメリカスズカケノキの雑種と推定されている。  
樹皮が剥げ落ちて、まだら模様になる。  
実は2個づつが多い。



あちこちに植樹されている日本のヒポクラテスの木には、挿し木苗で増やされたもの、実生苗で増やされたものが入り混じっており、同一クローンではない。アメリカプラタナスの遺伝子が入り込んだヒポクラテスの木も混在しているようだ。遺伝子の川の不思議を感じる。

(稲松孝思)